

2004 年度第 6 回常務理事会記録

日 時：2004 年（平成 16 年）9 月 18 日（土）13：00～15：20

場 所：東京大学大学院医学系研究科新研究棟 2F 第 1 セミナー室

出席者：廣川信隆（理事長）、河田光博、柴田洋三郎、高田邦昭、山科正平（以上常務理事）、依藤 宏（幹事）

・会議記録の確認

- 1．2004 年度（平成 16 年度）第 4 回常務理事会記録（案）及び同摘録（案）
- 2．2004 年度（平成 16 年度）第 5 回常務理事会記録（案）及び同摘録（案）
- 3．2004 年度（平成 16 年度）第 2 回理事会記録（案）、同摘録（案）、及び議事録（案）
- 4．2004 年度（平成 16 年度）（第 109 回）総会・学術評議員会記録（案）、同摘録（案）、及び議事録（案）

・報告事項

1．学会に届けられた文書等

- （1）文部科学省より「平成 16 年度科学研究費補助金（特別研究促進費）の募集について」：学会事務センターの破産により 国際シンポジウム、研究集会等の開催 定期刊行物の発行等に予期せぬ影響があった学会を対象に助成をおこなうもので、解剖学会は該当しないことが報告された。
- （2）文部科学省より「科学技術の振興に関する意見募集について」：解剖学会ホームページに案内を載せるとともに、学術委員会藤本豊士委員長に解剖学会としての意見をまとめて頂き、理事長名で文科省に提出することが決定された。
- （3）文部科学省より「公益法人改革の現状における情報提供について（通知）」公益法人制度改革に関する有識者会議による「論議の中間報告」：公益法人に対する課税をどうするか等の論議の中間報告である。
その他の 2 件の挨拶、案内が届いている。

- 2．平成 17 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）学術定期刊行物、データベースの公募に関する説明会（10 月 14 日東京）：高田庶務理事が出席することになった。
- 3．平成 16 年度日本医学会分科会助成費の交付について：20 万円が交付されることになった。
- 4．少量核燃料物質の規制に関する検討（案）：案をとりまとめている委員会の委員である山科理事より、9 月 22 日（水）までに意見があればお願いしたい旨、要請があった。
- 5．編集報告、ASI および解剖学雑誌刊行状況：両誌の第 3 号の印刷が終わり、印刷所から発送方法について問い合わせが来ている状態である旨、報告があった。

- 6 . 国際解剖学会議報告：正式な報告が **proceedings** として出るか、あるいは解剖誌に書いて頂くことになるとのことである。また、出席者数等の報告もおこなわれた。
- 7 . IFAA General Assembly 報告：現在の参加学会あたり 1 票の投票権は会員数に合わせた投票数に是正する努力を今後おこなってゆくべきこと。各種委員会の委員案は承認されたこと。京都宣言は現在字句の修正がほぼ終わり、各国の学会で確認のうえ、印刷体になる予定であること。第 17 回国際解剖学会議開催地は南アフリカケープタウンに決定したことなどの報告がおこなわれた。
- 8 . APICA について：第 4 回 APICA は 2005 年 9 月 7~10 日トルコ、クダサシで開催されることが正式決定した旨報告がなされた。
- 9 . 学会資料、資産の返却：竹村学会事務センター破産管財人より 9 月 7 日付で会員データの CD-ROM、通帳、有価証券、印鑑、未使用の入会申込書などの引き渡しを受け、現在山科会計理事が責任を持って保管中である旨、報告があった。
- 10 . 入会・退会・各種変更等の会員業務について：学会事務センターよりの残務資料として入会希望者 16 名、復活希望者 2 名、退会希望者 2 名、所属先変更 1 名があり、確認の取れたものから順に現在処理中であるとの報告があった。
- 11 . その他：竹村学会事務センター破産管財人から、倉庫に古い処理済みの書類が残っている旨の連絡があった。解剖学会としては一旦受領し内容を確認した上で、処置を決めることとした。

・審議事項

- 1 . 事務センター破産にともなう事務引き継ぎと新規委託先：新規業務委託先として最終的に 4 社が候補に残り、さらに各社の得失等について詳細に検討し、口腔保健協会を最適と判断した。この件については事務の停滞を出来るだけ避けるため、早急に理事会審議をメールにより実施することとなった。
- 2 . 学会誌発送業務の委託先：印刷の完了した ASI・解剖誌各第 79 巻 3 号の発送に関し中西印刷と Blackwell 社とに見積もり作成を依頼、検討した結果、中西印刷から発送することが決定された。
- 3 . 欧文誌 ASI の科研費申請：Blackwell 社より資料をもらい柴田編集担当理事が書類を作成し、申請をおこなうことになった。
- 4 . 欧文誌 ASI の Editor-in-Chief：大学の定年に伴い退任を希望している井出現 Editor-in-Chief の後任について、柴田編集担当理事が人選にあたることになった。
- 5 . 役員選挙準備状況：現在支部長に有権者（学術評議員）の確認を依頼中であることが報告された。なおこの件に関して現在までおこなわれてきた学術評議員資格の確認作業は非常に煩雑であり、何らかの改善が必要であるとの見解が示された。
- 6 . 学術会議解剖学研連報告：次回の研連シンポジウムは学術会議の改組が予定されているので例年より早目に実施することとし、名古屋大藤本豊土教授に依頼することになった。学術会議の改組にともなう科研費制度の変更については現在問い合

わせ中である。

- 7 . 科学研究費時限付分科細目設定要望の依頼：学術会議より研連を通して標記の依頼があった。10月26日までに部会案をまとめることが必要なので、メールを通じて各理事に周知し案を募集することになった。なお推薦件数は各部ごとに1件（やむを得ない場合でも2件）とされている。
- 8 . 次回常務理事会、理事会日程について
両会とも12月18日（土）に開催されることが決定された。